

SAY NO!
留学での性暴力にノーを!

SAY
NO!

MISSION

日本では留学に行く学生が年々増加していますが、**留学中に性被害に遭った学生たちの存在が明らかになってきています。**

私たちが2020年5月～7月に実施したアンケートでは、516件の回答のうち216件もの留学先での性被害が報告されました。

実際に留学先で被害に遭った私たちが知っておきたかったことを、これから留学に行く学生に伝えることで、全ての学生が留学を思う存分全うできる社会を目指します。

私たちの活動



実態調査

-KNOW-

まずは知ることを大事にしています。アンケート調査等によって、深く知られていない留学先での性暴力の実態を暴きます。また、被害当事者の体験談を集めることで、よりリアルな実態調査に努めます。



イベント開催

-CONNECT-

全国の学生と教員向けに、留学先での性暴力の認知を高め、その予防と対策を伝えるイベントを開催しています。また、イベントを通して、学生がいざとなったら頼れるつながりを増やすことも目指しています。



情報発信

-SPREAD-

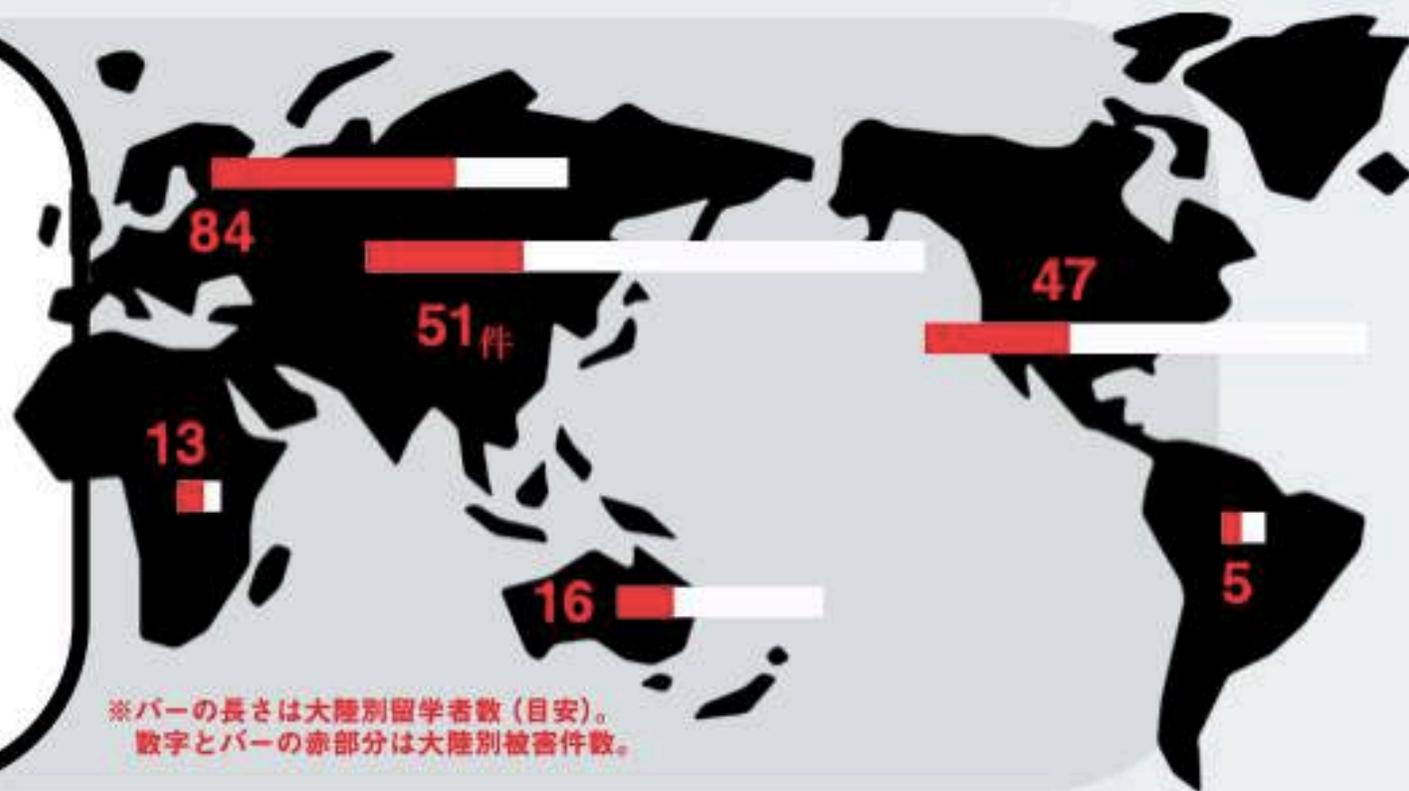
PDFマニュアルやWebサイトの作成を通して、留学前の学生や留学に送り出す教員向けに、情報発信を行っています。当事者によるアドバイスや専門家の知識を1人でも多くの人に共有します。

アンケート結果

**SAY
NO!**

性暴力は どこでも起こる

6つの全ての州から性暴力が報告された。
特に、欧州・中南米・アフリカは
留学生数に比べて被害件数の報告が多い。

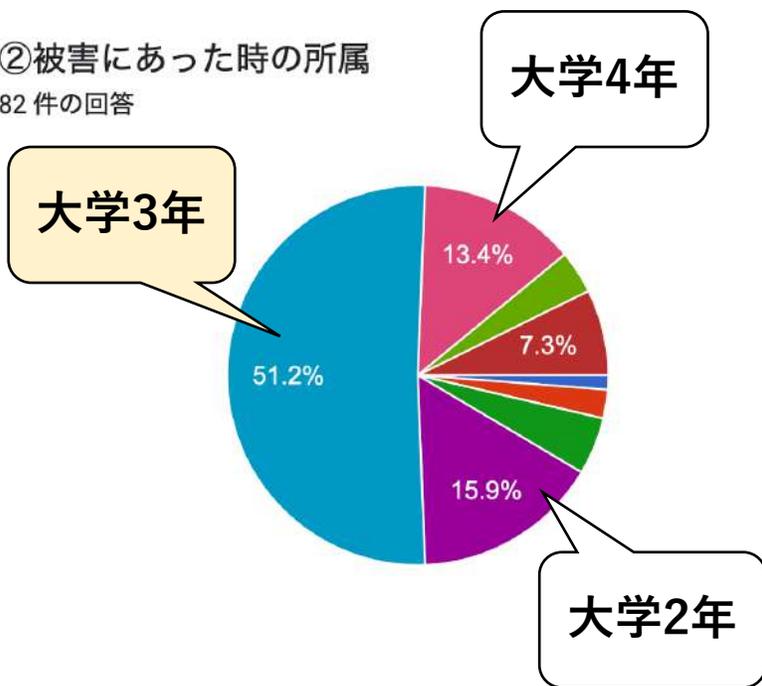


**SAY
NO!**

被害に遭ったときの所属

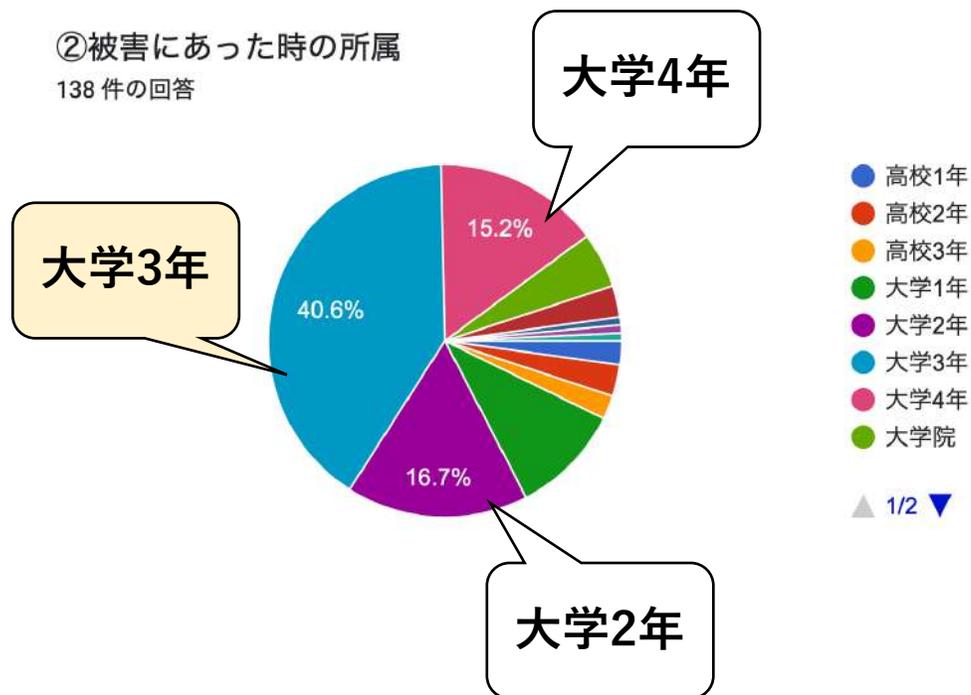
日本人からの被害

②被害にあった時の所属
82件の回答



外国人からの被害

②被害にあった時の所属
138件の回答



**SAY
NO!**

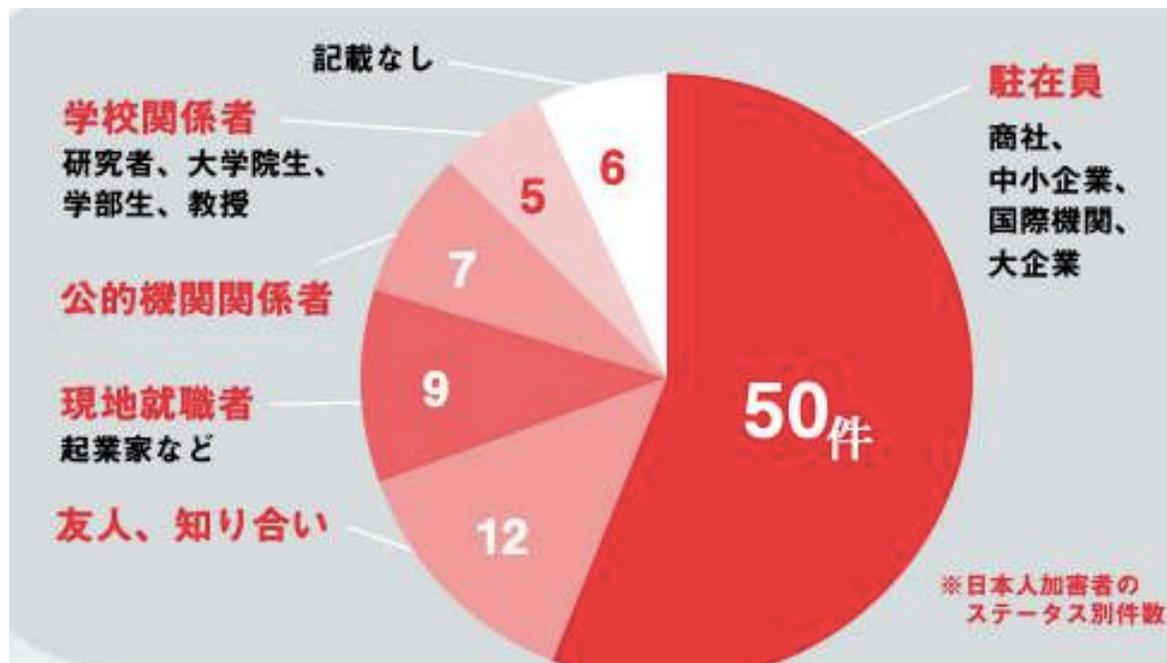
加害者の属性

日本人からの被害の場合

VOICEより抜粋

Aさんと知り合ったのは留学前のこと。商社で働くOBとして、大学に講演に来ていたことがきっかけだった。

留学開始から一週間ほど経ち、食事に誘われた。そこで「愛人にならない?」「男を知らないとだめだよ」と下品な言葉を言われ、別れ際に腰に腕を回され、顔にキスをされた。



多くの事例で、被害者が20代前半、
加害者が社会人だ。留学先で
信頼できる情報網が必要な

若者の弱みに つけ込む

社会的地位を利用した加害者が多い。

**SAY
NO!**

立場の優位性を利用して性的な関係を強要する

留学だから
こそ起きる
日本人から
の性暴力。

留学先で、同じ日本人からの性暴力にあう被害が多発している。大事な現地の情報網を持っている日本人が権力を行使して迫り、立場の構造的に、被害者が“やめて (NO)”と言えない現状がある。

被害後の留学生たちは、①日本人コミュニティの中、やり過ごすために沈黙する。②村八分覚悟で自分の尊厳を守るために声を上げる。

この選択で、沈黙を選ばざるを得なかった留学生たちがほとんどである。大事なことは、日本人だからと相手のことをむやみに信じすぎず、適度な距離感を保つこと。



日本人コミュニティのお酒の場で…

**SAY
NO!**

加害者の属性

外国人からの被害の場合

VOICEより抜粋

ハロウィンのシーズン、友達で集まってハロウィンパーティーに参加していた。参加者の多くが酔っぱらい始めた中、それぞれが家に帰ることになり、信頼していた現地の友達Kの友達Aがバイクで私を家まで送り届けてくれるとのこと。そのまま家の方向に向かうと思いきや、バイクは普段私が行ったことのない方面に向かい始め、薄暗い場所で降ろされてレイプをされそうになった。

外国人加害者の社会的ステータス

現地就職者

1.7%

学校関係者

6.7%

友人・知り合い

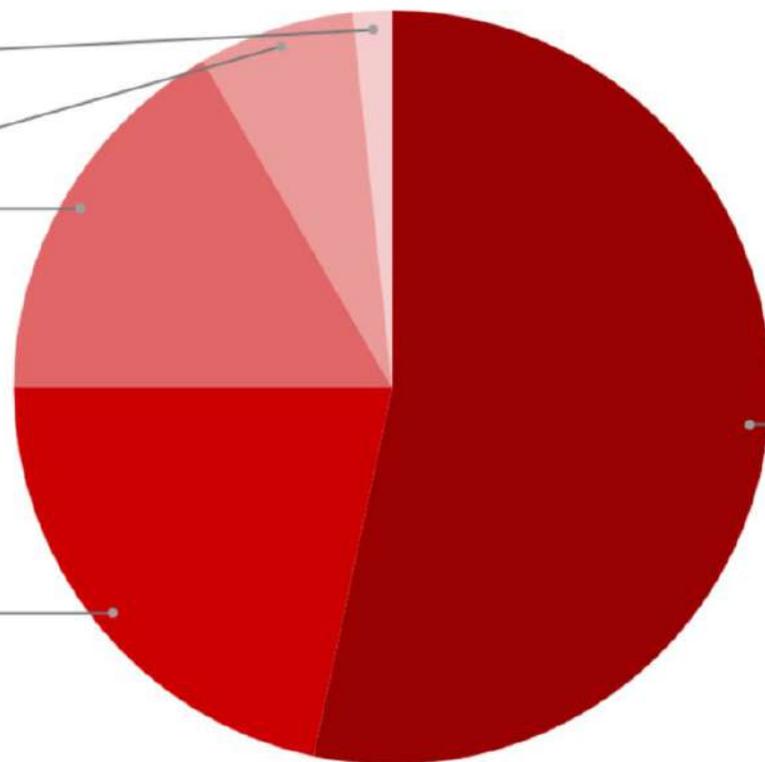
16.7%

駐在員

21.7%

所属不明

53.3%



**SAY
NO!**

「アジア人」ステレオタイプ文化のギャップ

にもとづいて性被害が起きることもある

外国人からの性暴力。

日本でされて嫌なことは、どの国でされても嫌なこと。その国の文化？相手を不快にさせるかもしれない？はっきりNOと言っても、逃げても大丈夫。大切なのはあなたの気持ちだから。相手と縁を切ることや、帰国することも時には必要。あなたの心と身体の安全を第一に。



これから1年間お世話になるホストファミリーからのセクハラにあった...



日本人だからと目立ってしまい、パーティで知らない人に誘われた...

万が一、性被害に遭ってしまったらどうしたらいい？

100%悪くない

被害者は、

性暴力が起こってしまったら…覚えておきたい3つのこと

すぐ検査！ すぐ対処！

妊娠や性感染症の恐れがあります。すぐにアフターピルを服用し、産婦人科や妊娠検査薬で検査しましょう。コンドーム、アフターピル、妊娠検査薬を日本で用意することを推奨します。留学先で入手するのが困難な場合があるからです。

相談できる人を 複数持とう！

セカンドレイブを無自覚に行う人がいます。相談できる人が複数いることで、よりの確な意見をもらえる可能性が高まります。親、友人、大学、現地の信頼できる人、カウンセラー、ワンストップ支援センターなど、話したい人に話したいと思ったときに話してみてください。

加害者を 処罰できる！

被害に遭った直後、多くの人はそんな気持ちになれないと思います。しかし、加害者が罰せられることで、尊厳を回復し、社会を信頼することに繋がります。実際に、加害者の所属先に報告したり、慰謝料を請求した留学生たちがいます。

事前にできる調査項目

- もしもの時、すぐに連絡できる場所の連絡先を調べておこう。→ 近くの産婦人科、日本語対応の医療施設、大使館、大学の留学生課・ハラスメント相談室など。国によって頼れる場所は大きく異なります。
- 留学先のアフターピルの扱い状況を調べておこう。緊急避妊薬の地域別購入情報 <https://www.cecinfor.org/>



